

作圖

下

柳田文庫  
文庫11  
A1473



商の店

文  
A

一ふらた町は  
一みまの  
一まを  
一



商

商の店五の要



一 小ぶら所は佐

二 見世の

三 餅り

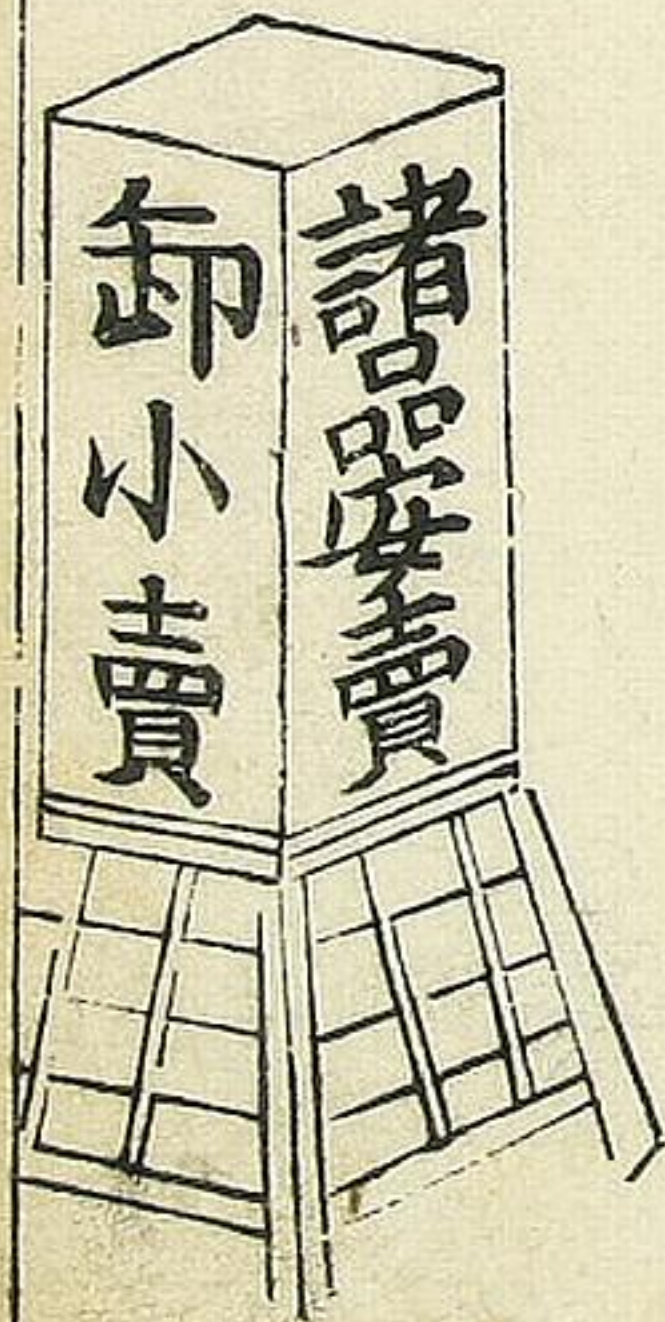
三 小ぶら

四 小

安賣現金

五 小ぶらの

用心



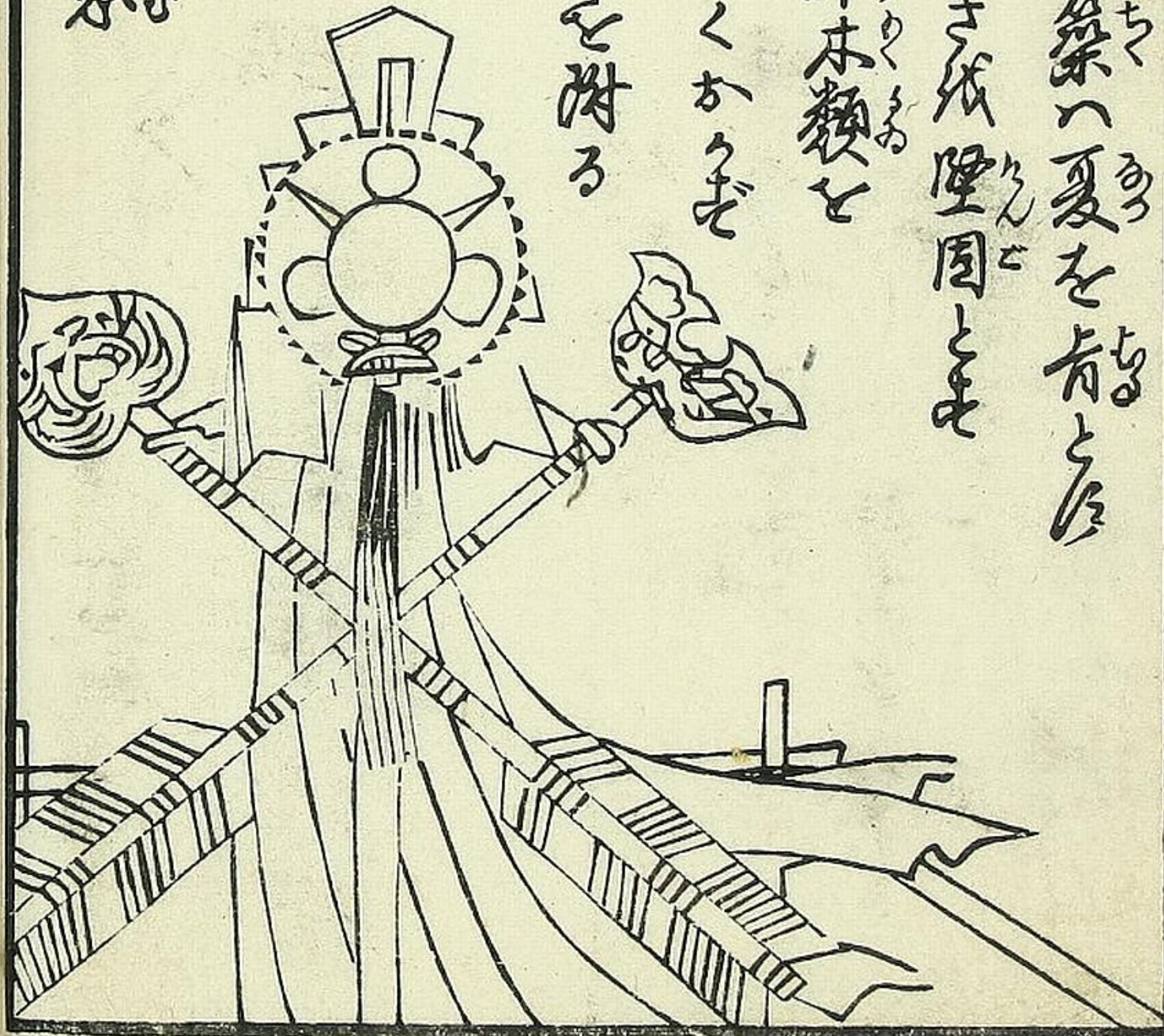
文庫 11  
A 1473

柳田泉文庫

# 家作の六要

イナ

- 匠家の建築の夏を旨とす
- 家棟ハ低キ瓦堅固とす
- 椽の下ハ草束類と
- 竈五ノ煙出と附る
- 雨戸ハ
- 便所ハ



十六

己が眼ハ不見  
 あのが身と化す  
 此坂持るがう  
 梳のみと云  
 人をあそぶ



二隻

女者納内  
 雌乃まむる智又よ  
 時成ふ久む  
 久らふ雄

十七

陶宮の龜

て  
ひもあらし

路もあらし

尾もあらし

身と正

龜も万年

六藏の龜

まちがせの網は

目教の

あや  
まさせと



▲身とちめたる

六藏の龜

六藏の龜

六藏の龜

外面の信心

身やまよ敷珠の

かぢれど

かんぢんの。



人々まきほ

煩惱速菩提

後捺と

角さ

それ鬼とま

佛よあれを

なれるのあり

なれるのあり



なれるのあり

# 保身の十掟

- 貪欲戒  
情む重し
- 我行未を  
思ふべき
- 大酒戒  
飲重し
- 我言  
おそむべし
- 人戒  
賤むべき
- 幸急戒  
染の程をば
- 女急戒  
ゆるまざるべ
- 争別者  
近よるべし
- 朝寝戒  
おそむべき
- お終ぐ物  
備ふべき

# 善悪の出脚



善事ハ  
此戒得て  
門戸を出る  
悪事ハ  
根よ千里と  
は一家

嫉妬の改心

厚た

のちも

大福

隣と

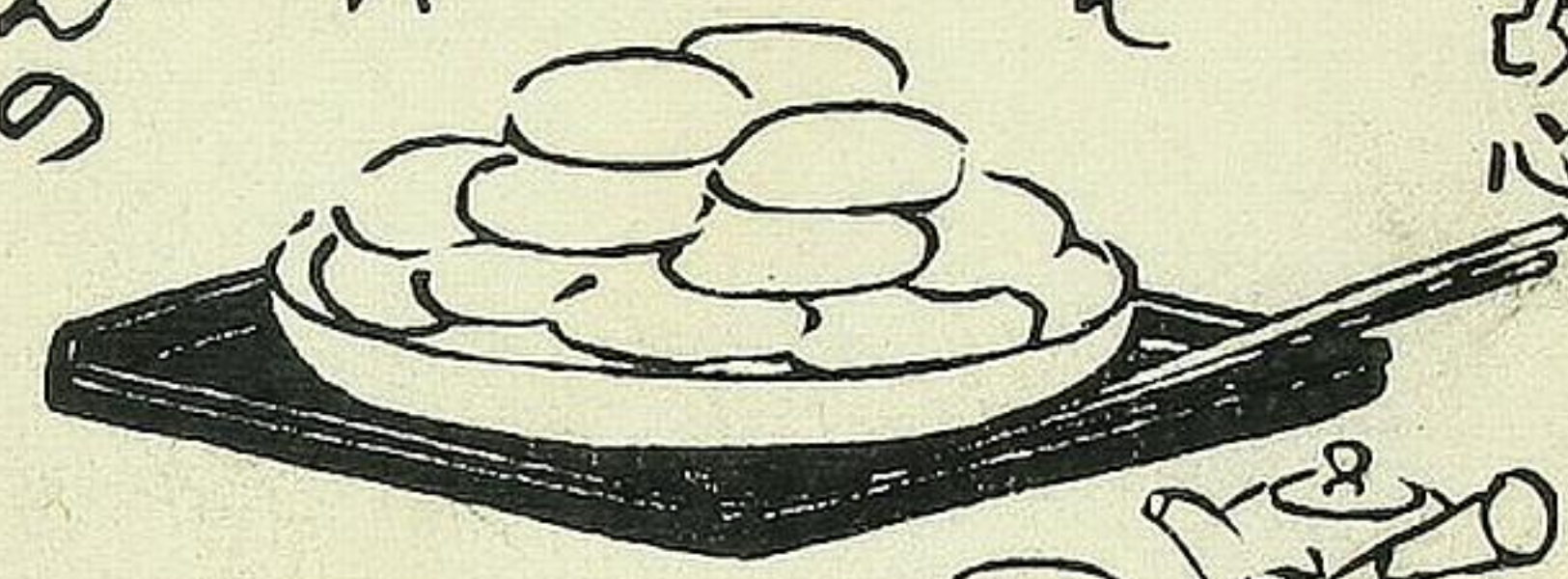
かまう

また

ごまあんの

ちんち

かゝる



家賊永續

身代

ゆる

物と

あよ

ふ

長久

儂

あま



朝起者健康の本

あはれあくと

明馬とび

家く

あきね

早朝よ



無事者百善の本

接

さうと

さうも

ぬの

熱の一等



蔬<sup>そ</sup>の食<sup>しょく</sup>之三<sup>さん</sup>之益<sup>ふき</sup>

仁義

第一

身<sup>み</sup>の分<sup>ぶん</sup>残<sup>ざん</sup>

安<sup>やす</sup>くしなす

福<sup>ふく</sup>残<sup>ざん</sup> 養<sup>やま</sup>ひ

第二

胃<sup>い</sup>を寛<sup>かん</sup>めて

元<sup>もと</sup>残<sup>ざん</sup> 養<sup>やま</sup>ひ

第三

費<sup>つひえ</sup>減<sup>げん</sup>省<sup>しょう</sup>をなす

取<sup>と</sup>残<sup>ざん</sup>やいなす



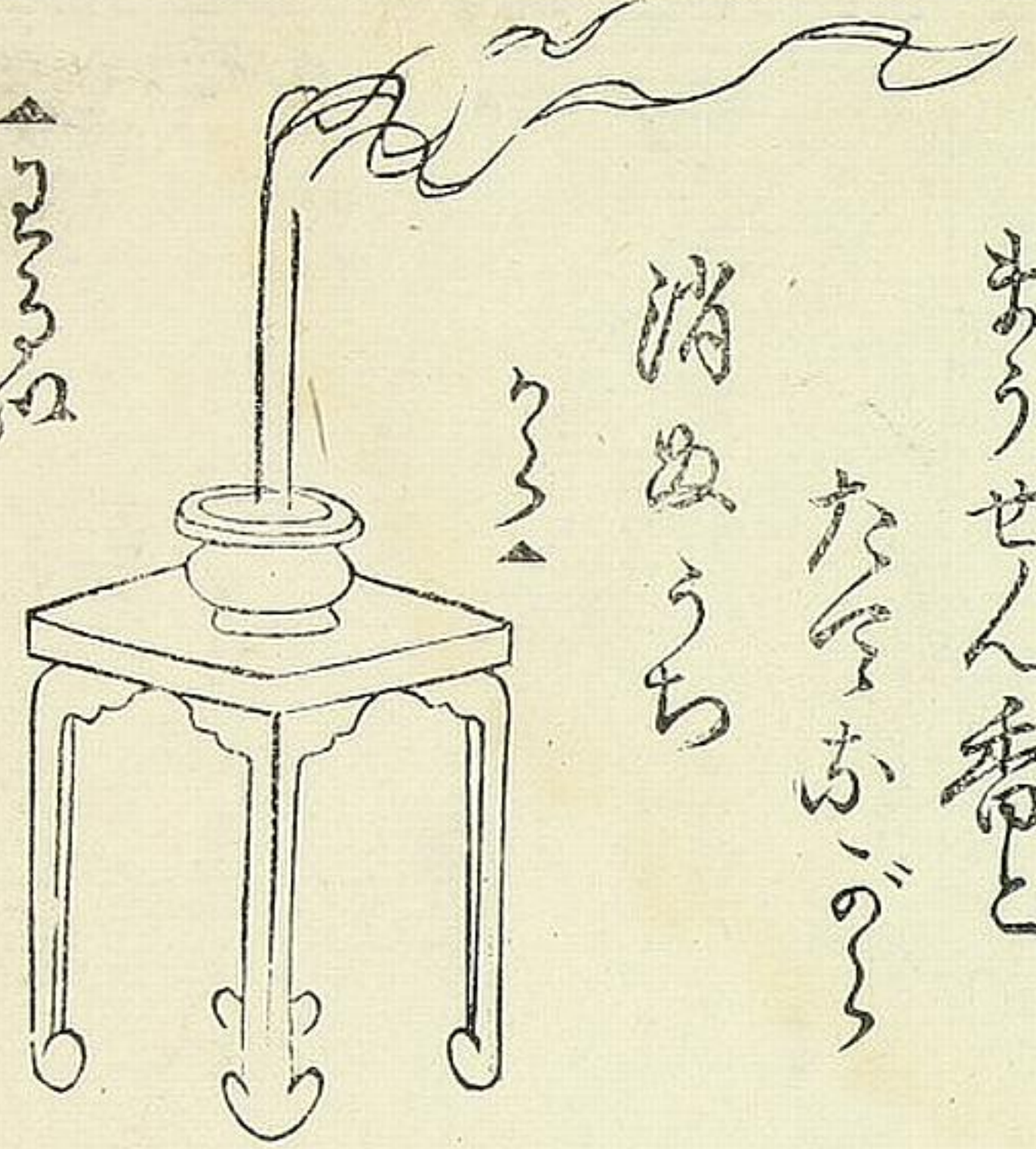
人心<sup>にんしん</sup>難<sup>なん</sup>頼<sup>らい</sup>

ころひ事<sup>こと</sup>を

まうせん香<sup>かう</sup>と

たをふご

消<sup>しょう</sup>ぬらち



ろ<sup>ろ</sup>管<sup>かん</sup>

前後<sup>ぜんご</sup>残<sup>ざん</sup>見<sup>み</sup>て

下<sup>げ</sup>知<sup>ち</sup>をふせ

そは何<sup>なに</sup>と

梅<sup>うめ</sup>のわりの残<sup>ざん</sup>

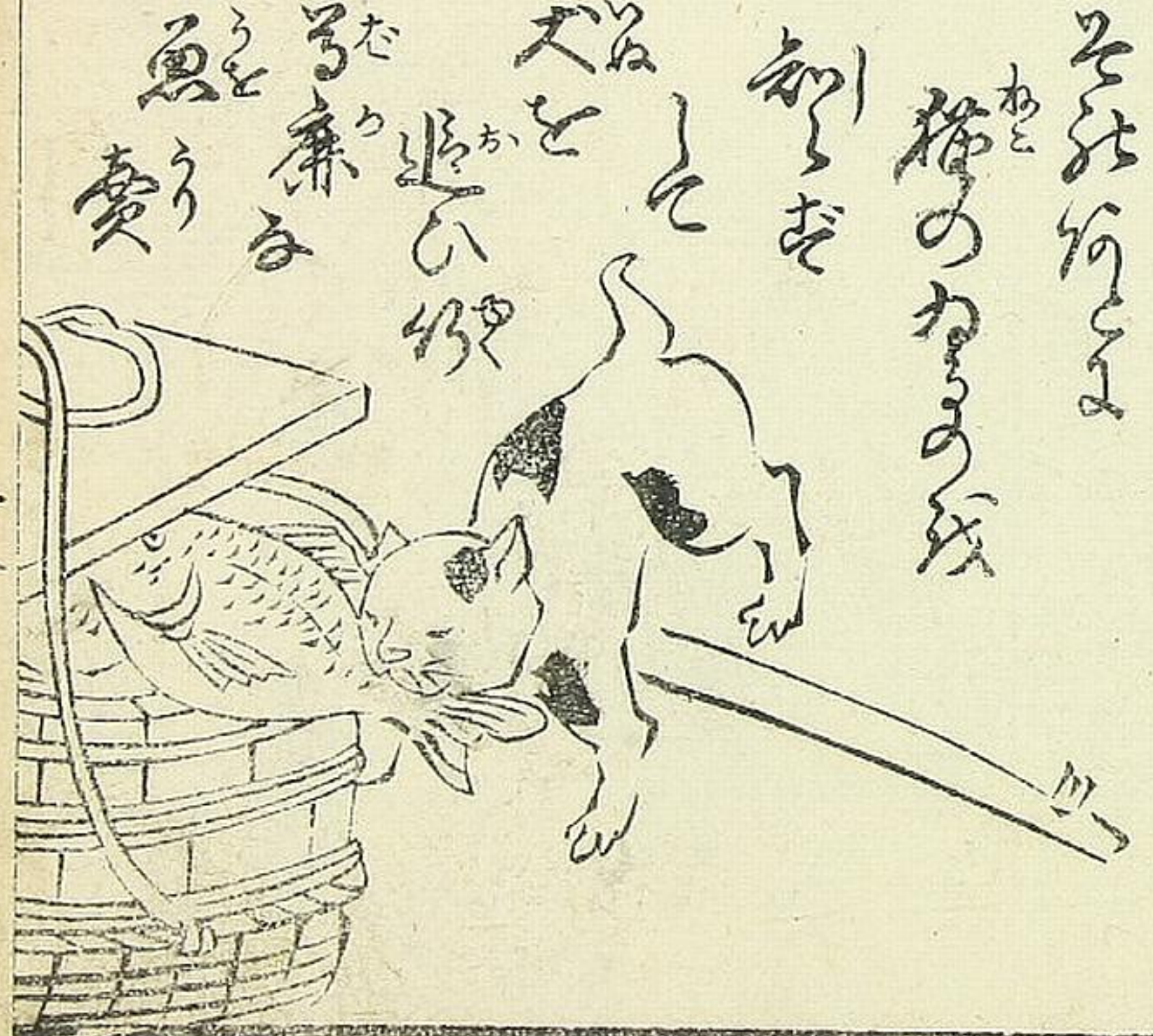
知<sup>ち</sup>らび

犬<sup>いぬ</sup>と

追<sup>お</sup>ひ

魚<sup>うしほ</sup>と

賣<sup>う</sup>り





# 家僕の五の順

仁義

第一朝起て雨戸

門を

ひら

第二

水を

汲み

第三

竈の業

第四

内外の掃除

第五

主人の

機織

まきく



負

勝

負

人

笑ふ

仁義



智恵

の

つら

ゆゑ

あり

耳目鼻口ハ

心君の奏者

身

目

耳

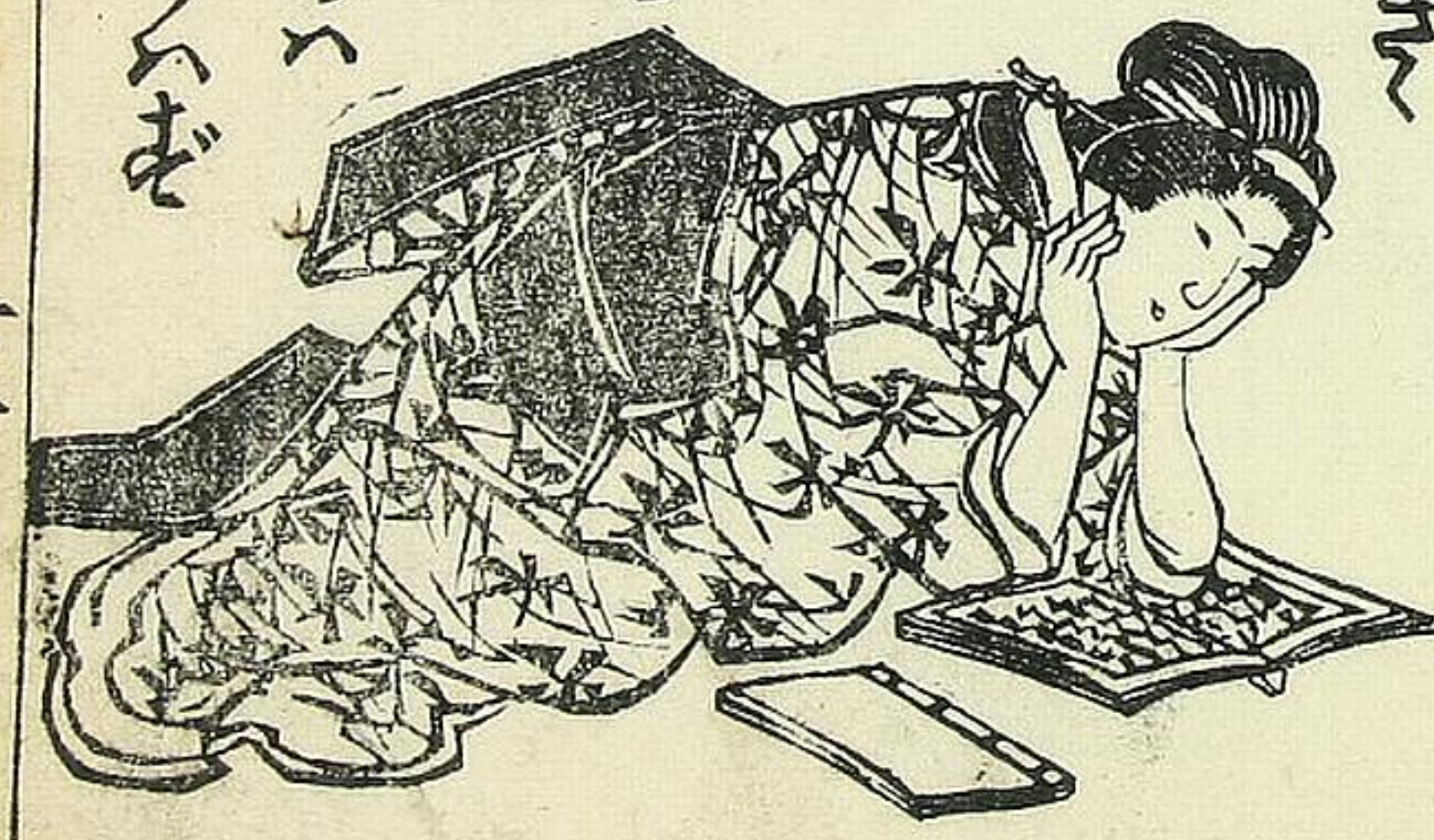
舌

心

肝

脾

たがひ



世三

小者大の本也

万石の米も一粒

万倍が本多

万銭の中一銭

かひて毛扱は満ち

千里の道も

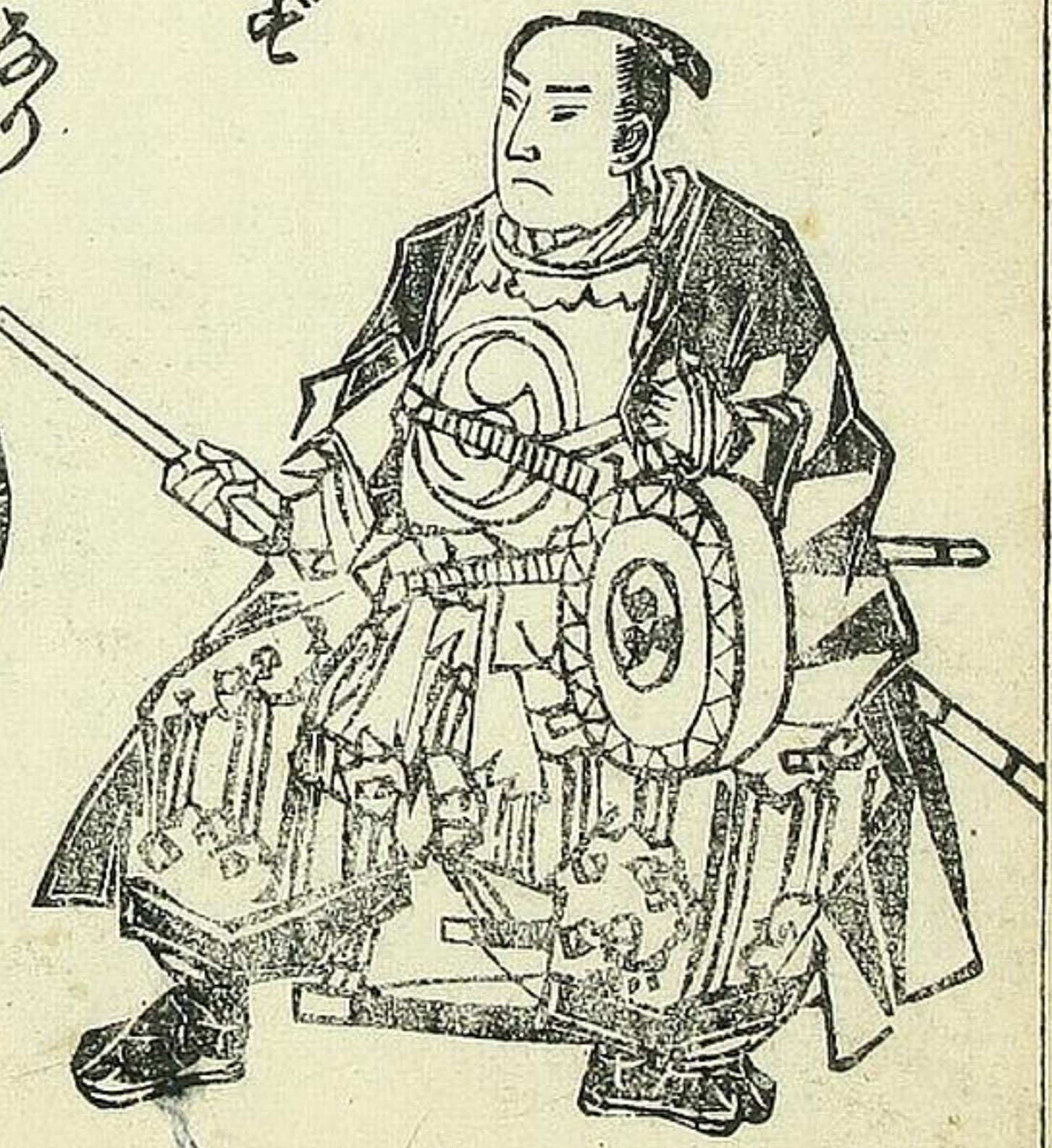
一歩が始り多

何事も不幸

知れぬ者

大なる事

みちる事



返事ハ早ガヨ

人喰を身らうと云ふ由

春リハクヨ

生ハ尽人ト云

ままやふさま

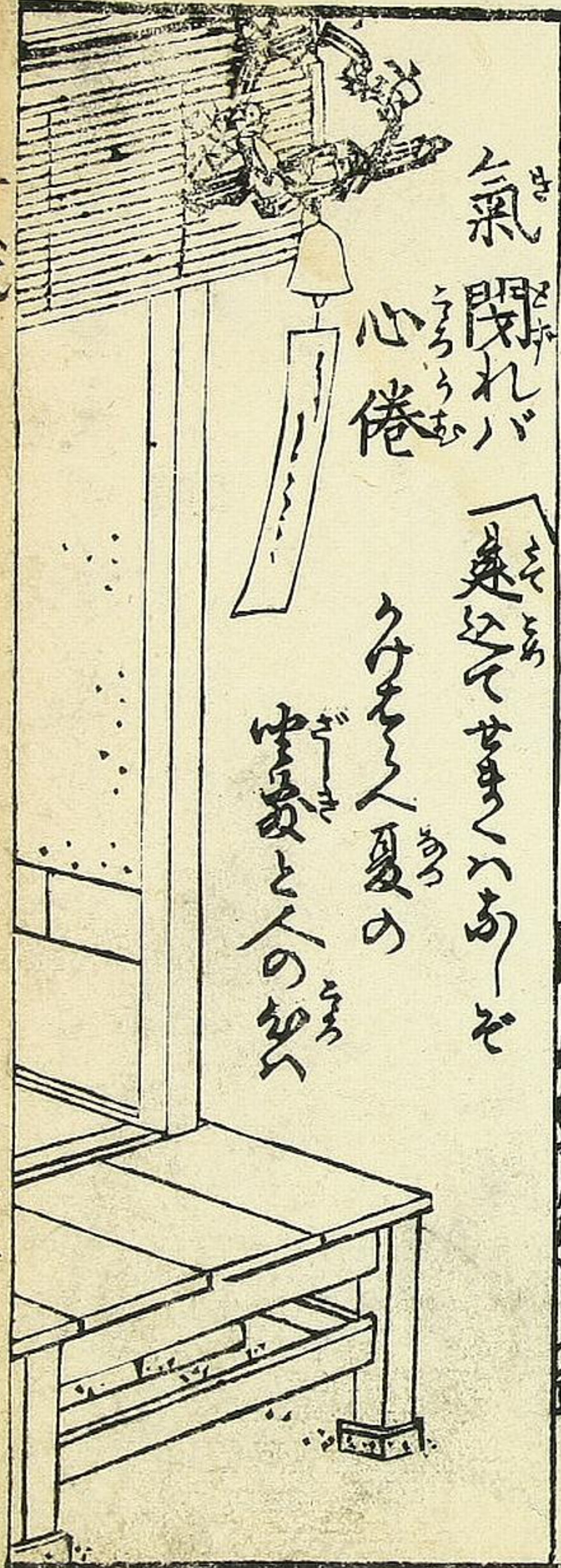


氣開れば一途にてさまへあそ

心倦

うけをく夏の

中夜と人の知



### 男子の三要

男子たる者ハ士農工商と云

一家を保つゝ家の権威

美教を修むるを修

貞実柔和の

女と嫁が男一あり

男二柱業ヲあみく

家業を忘れむ

男ニ親族のむらめ成たまひ

あべなる定約と成違へむ



### 女子の五要

女子たる者一生の要心と云る家の女儀男の

寄よりくむを修むる家業の徳の

男ふあふふか男一あり

男ニ親族の言葉とをむむむ

男ニ衣後食物の

衣類は修むるを

男は親族と和合を修む

男は主人の命を内外よ

礼儀を修むる

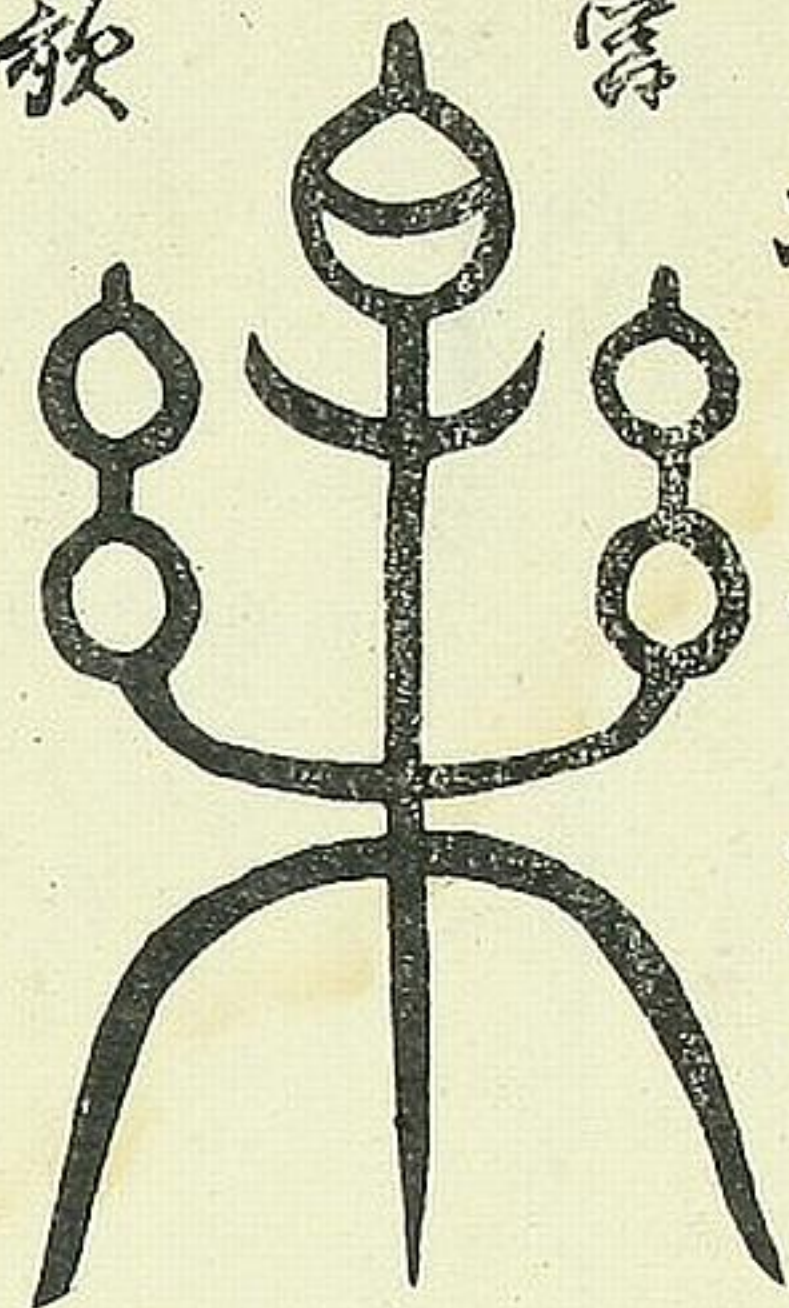


陶宮の樂

若くはのさあさあさあさあさあ  
のさあさあさあさあさあさあ

陶宮

茶飲



若くはのさあさあさあさあ  
生さあさあさあさあさあ

夜が明けける

醫者の三義務

第一

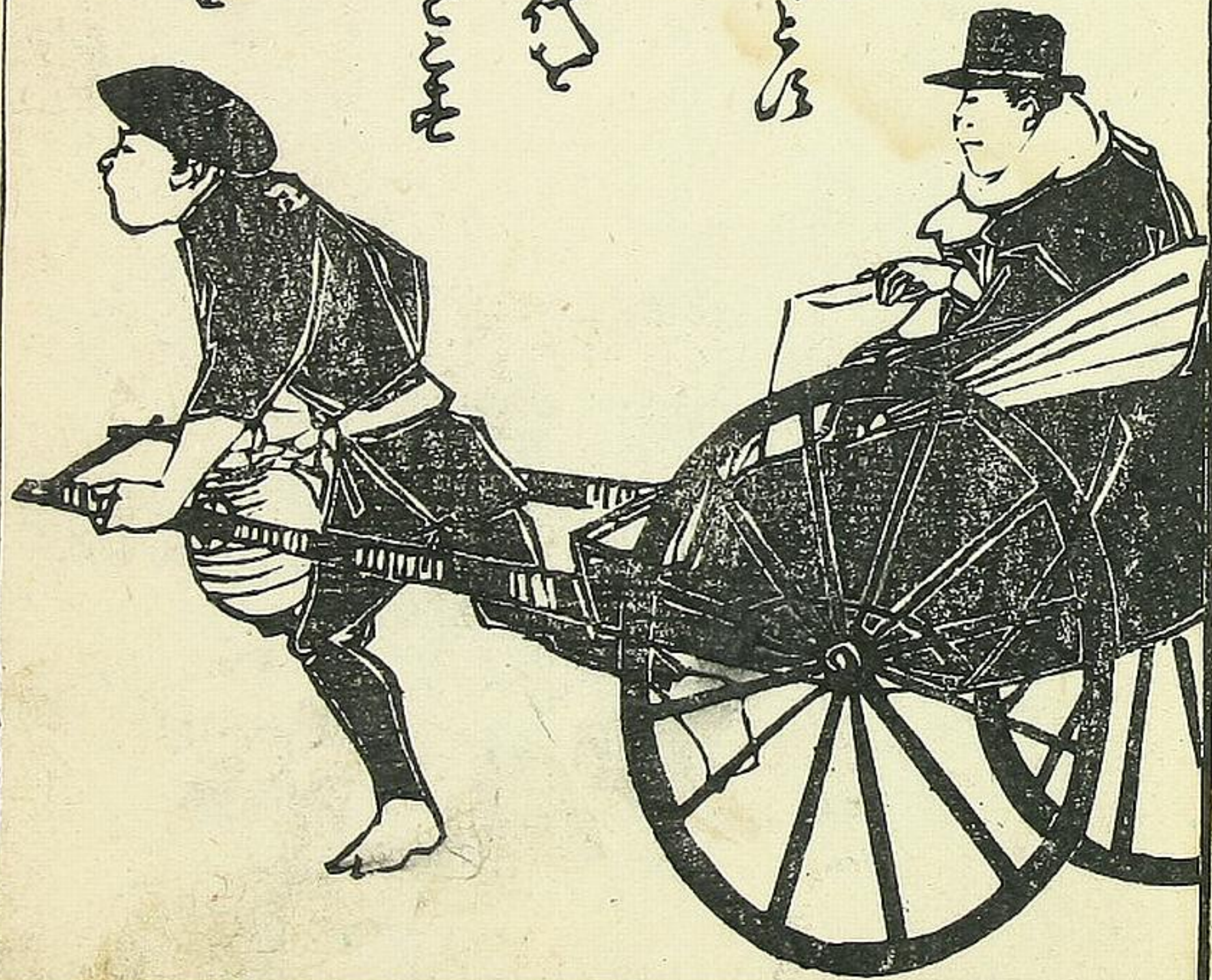
人命を貴びて佳業を  
のりよりつを極たて者といふ

第二

貧家の病人より業代を  
願せ仁恵とあざとせ

第三

病家への風ぬれ夜を  
いそむるを人



心智開眼

まま  
まま

まま

まま

まま

まま

まま

まま

まま



知るべし

城欲の心人

泰平の  
 浄代よ  
 修くも  
 城の  
 後  
 申  
 っも  
 ドン  
 チヤン



あらあちと移り  
 くらみまきよ  
 小ぎえ根付を  
 春を咲あり



美食の身  
 味もさうふあり  
 ちづりげも



仁義

損友の交

酒食の

友も

危難と

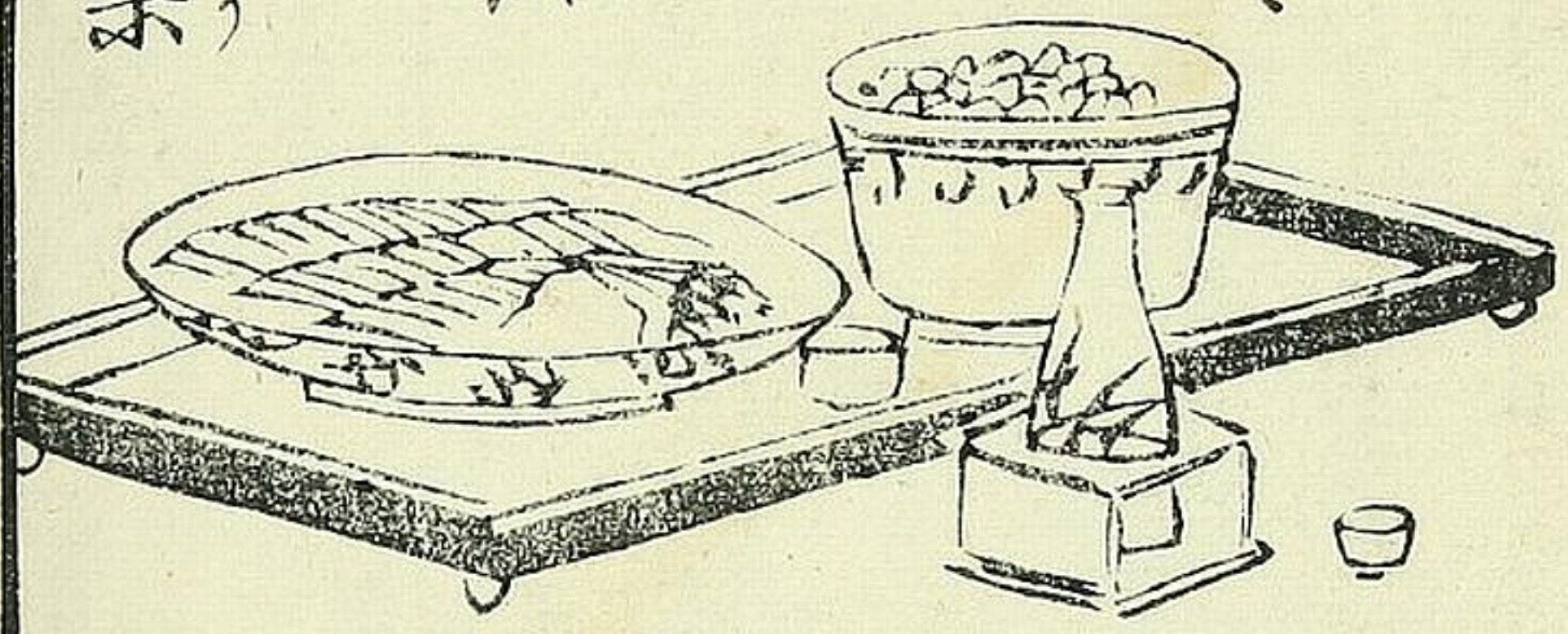
不技

一身

迫れば

親者の

泣集



獲魚棄網

千金の

貴き

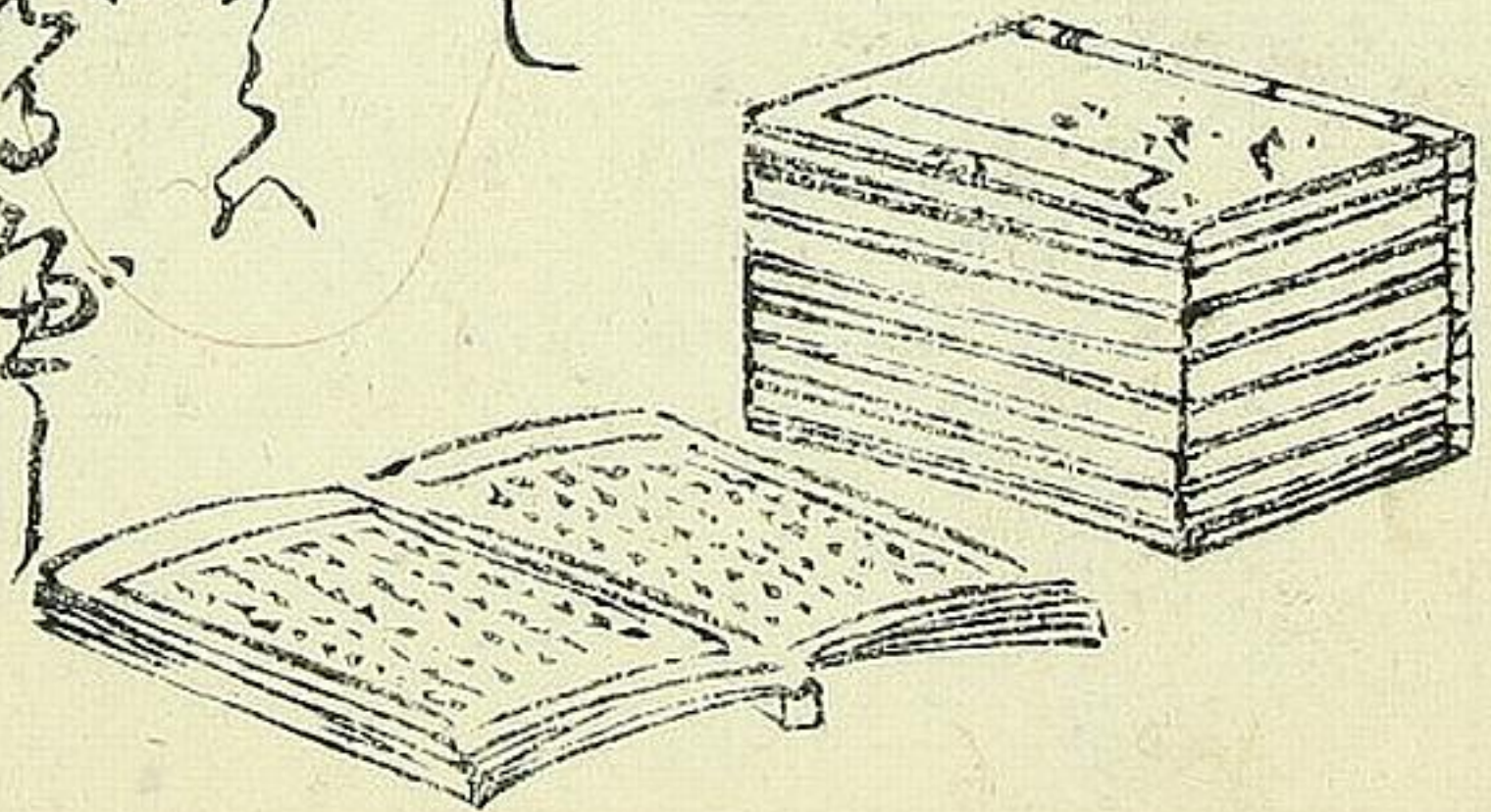
書も

学びえ

人の目

及古と見る

群書



辟足生徒

臺男臺女学問の始と教師

心の女を以てしるる

身を守の女よまがらて

我志とまらば修好

の心よようそらてい

度らまのつまでも教師の女の

たのこてこ志とまら者へ教師を

たませば先の産人風をまて一生まよ

らぬ者成り多生とのみあのく志とまてかくの如た学校の



△のそらほしめり

あぶ  
び

二巻

廿一

# 童の十禁

- 虫魚の殺生
- 石なげ
- 悪ふち
- 犬のけいかけ
- けんちん
- 修好れおこたう
- 蝶のらくがた
- 碁古の道なき
- 大道の買ぐい



## 食者在務

此秋を雨う果う  
 初う採ども  
 久みれつとあよ  
 田の草とさう



## 情心

貫石  
 石衣  
 坂初よ落れどおの  
 朝の玉あ



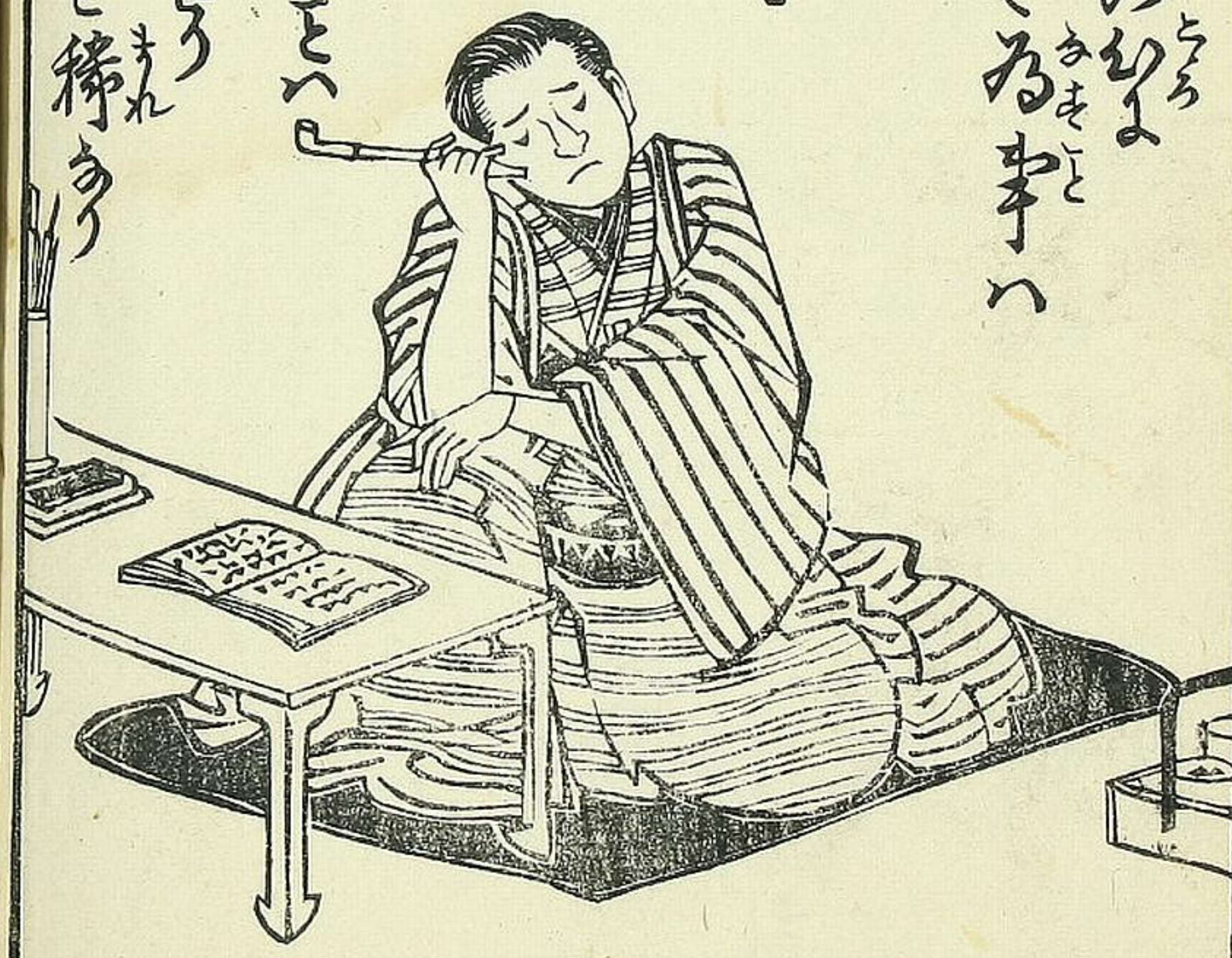
心氣は區別

何事より心は  
感トて為事ハ

未だ遂々  
成就事

何事も心よ

半途より心  
未だ遂々ト稀あり



轉ぬ杖  
のるあろび

やほしと

文字を  
さへ

角心

乃

仁柔  
軟ハ  
其形

上好仁下好義

固ハ  
其形  
方あり

仁

義

二長

七





鳳凰  
雄鳳ハ雌  
此鳥ハ仁者ニシテ  
天下泰平ニシテ  
羽虫ニ百六十中ノ長ナリ

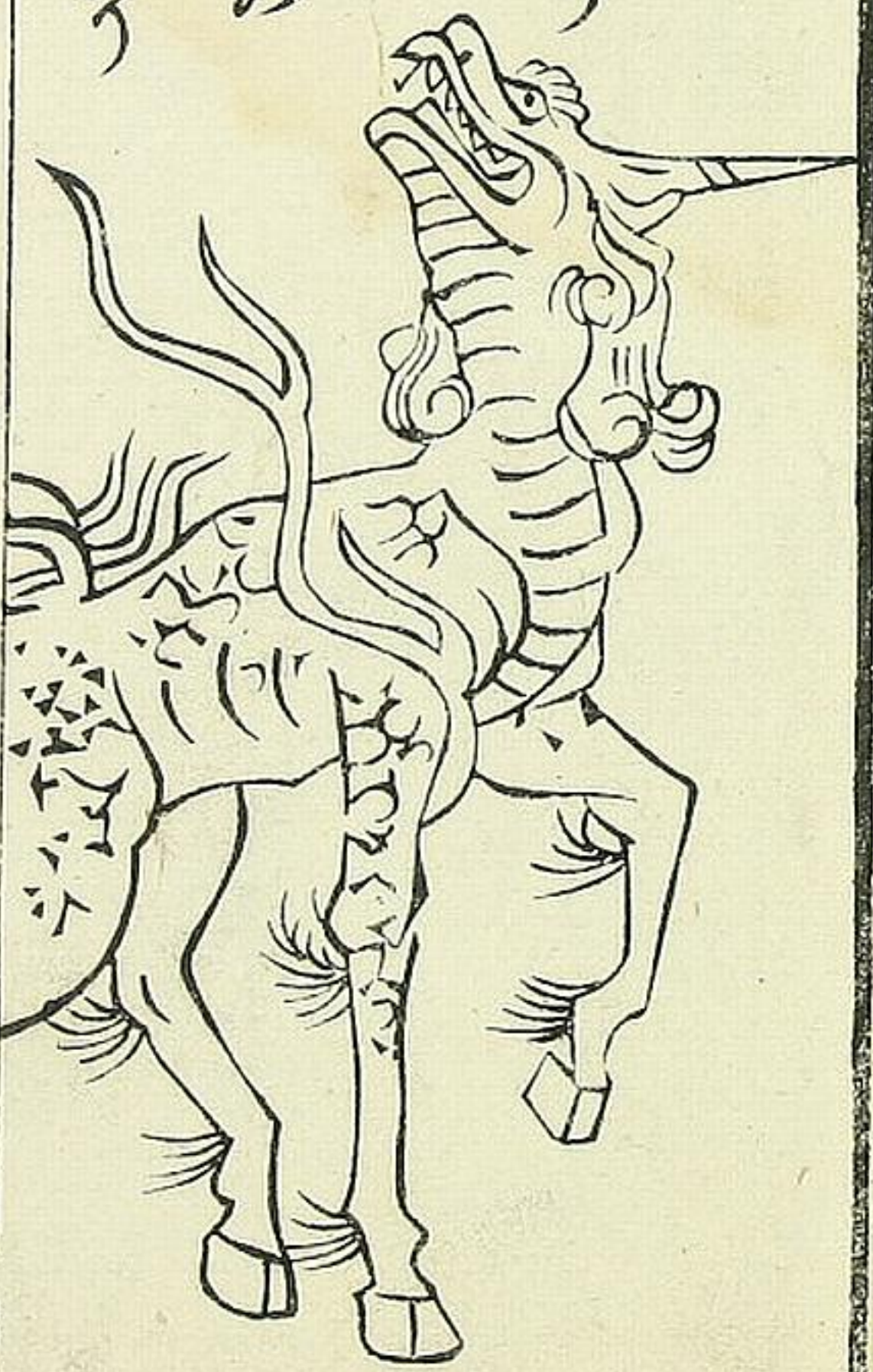
四 虫

人倫  
人ハ天地ノ見ニ  
のりテ天子ヨリ  
養人ニシテ月計ニ  
裸虫ニ百六十中ノ長ナリ



の 長

麒麟  
麒麟ハ北ニ  
天下安寧ニシテ  
此獸ハ一ノ毛ニ  
ニ百六十中ノ長ナリ



龍  
龍ハ一ノ寸ニシテ天ノ氣ニ  
生ト雲ニ紀一風ニ  
大小ノ姿ニ形ハ自在  
ニシテ鱗虫ノ長ナリ

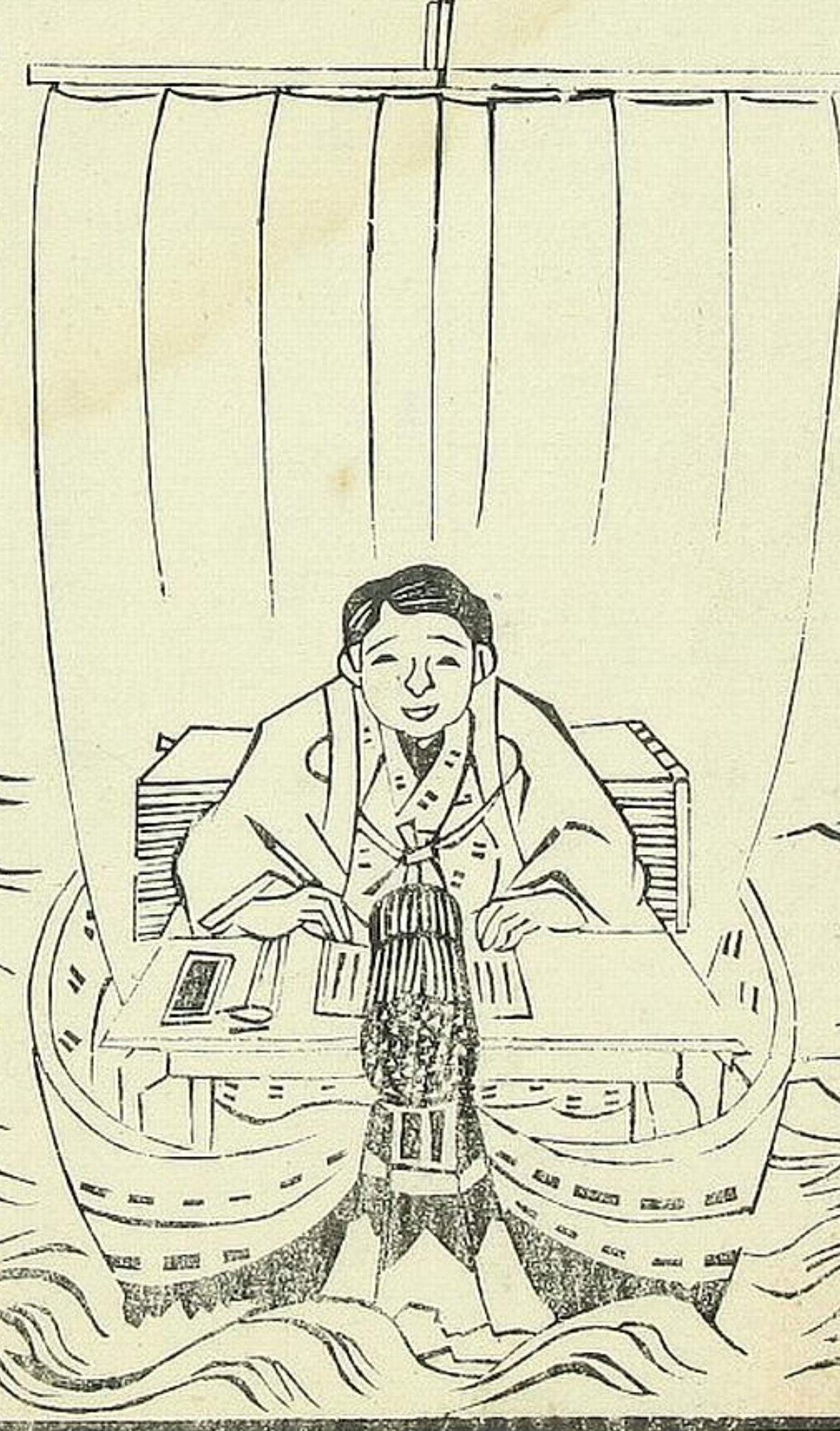
010190528346

# 學海の順風

學問の海は身の変船とてうもて掉はし  
帆とあつとた教所の順風よくれを

業の岸ふるる  
生徳の松年  
いとちか一緒  
子君勉強  
せうきよあま  
ぐんぬん  
学海の順風  
とふひ今日  
成望大ある有縣の學校とさして  
ひまの学ぶごとく

服部應賀教白



版權免許 明治十六年十二月五日  
出版發兌 同 十七年第一月

編輯人

服部應賀

静岡縣平民

東京下谷区下谷西町  
三番地

出版人

東京府平民  
木村文三郎

東京日本橋区馬喰町  
二丁目壹番地



